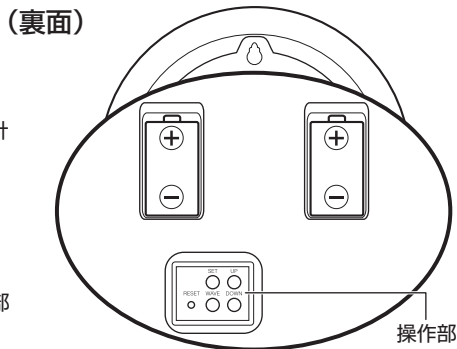
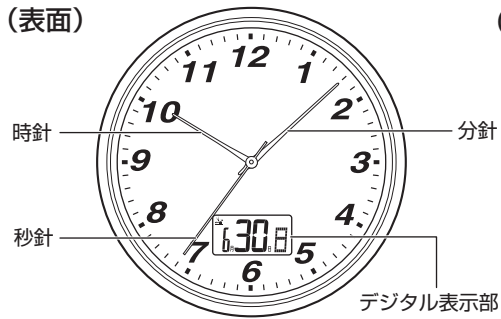


各部の名称と表示の見方

※機種によりデジタル表示部に「展示用シール」をつけて出荷しております。ご使用前に必ずこの「展示用シール」を取り外してください。



●デジタル表示の見方

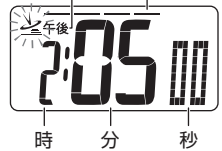
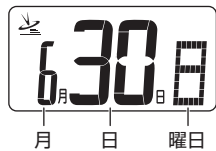
<通常表示>

「月・日・曜日」を表示します。

<受信中表示>

「時・分・秒」を表示します。

午後マーク
(通常表示及び午前中は消灯)
受信インジケータ



●操作部について

セットボタン

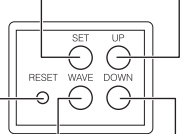
押しとセット状態が切り替わります。

アップボタン

押しごとに点滅箇所の数字が進みます。

リセットボタン

電池交換後、必ず押します。



WAVE (ウェイブ) ボタン

押しと電波受信を行いません (手動受信)。

ダウンボタン

押しごとに点滅箇所の数字が戻ります。

電源について

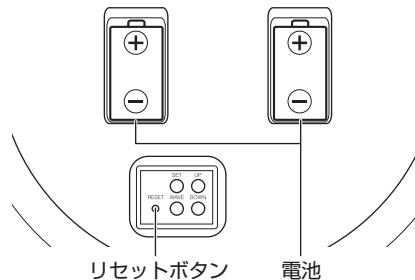
- 本機は単2形マンガン乾電池を2本使用します。
- 乾電池はできるだけ“カシオ指定の電池”または同等品をご使用ください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、電池を取り外して保管してください。

お願い

機種により付属の電池を製品に入れて出荷しております。この場合は、電池消耗を防ぐために、電池部分に「絶縁シート」をつけておりますので、ご使用前に必ずこの「絶縁シート」を抜き取ってください。

■電池交換のしかた (電池は全て交換してください)

- (1) 古い電池を取り出します。
- (2) 新しい電池の⊕⊖を間違えないようにして完全に押し込みます。
- (3) リセットボタンを押します。



<ご注意>

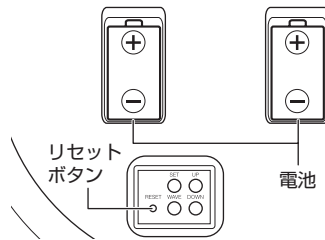
- 電池の⊕⊖の向きは正しく入れてください。
 - 電池が消耗しますと液晶表示が「薄くなったり」「消えたり」します (アナログ時計の場合「時計が遅れたり」「針が止まったり」します)。このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください (定期的な交換をおすすめします)。
 - 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
 - お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池*のため、記載の電池寿命 (約1年) に満たないうちに切れることがあります。
- *モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
- ※電池が液漏れを起こした場合は液に触れずすぐにふきとってください。
- ※電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一飲み込んだ場合にはただちに医師と相談してください。

本機の使い方

本機ご購入後初めて使用するとき、および電池交換後には、以下の手順で操作を行なってください。
 ※本項目と共に「電波時計について」を合わせてお読みください。

1 電池を入れます (「■電池交換のしかた」参照)

- ⊕⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます。
- 電池を入れると同時に時・分・秒針が「12:00」の位置に向けて自動的に動き始めます。
- ※針は正転方向(進む方向)に進みます(逆方向には進みません)。
- ※電池を入れても針が動き出さないことがあります。この場合には、リセットボタンを押すと針が動き始めます。



2 リセットボタンを押します (リセット操作)

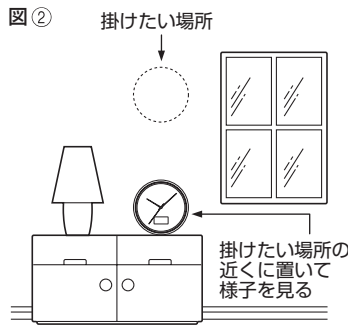
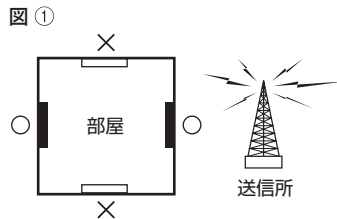
本機裏面のリセットボタンを押すと、電池を入れたときと同様に、時・分・秒針が「12:00」の位置に向けて自動的に動き始めます。また、デジタル表示は「午後 12:00 00」となります。
 ※電池交換を行なったあとは、必ずリセットボタンを押してください。

3 本機をお掛けになりたい場所の近くに置き、電波受信の様子を見ます

デジタル表示が「午後 12:00 00」、アナログ針が12時の位置になると、自動的に電波受信を開始して時刻修正を行ないますので、窓際などできるだけ電波受信しやすいところに置いてください。
 ※受信中は受信インジケータで受信状態をお知らせします。

<受信インジケータ>	
1段階 —	受信しづらい
2段階 — —	↑ ↓
3段階 — — —	
4段階 — — — —	受信しやすい

※受信開始後、受信状態により段階的に変化します(4段階)。
 ※受信しやすい場所でも4段階まで表示するのに約10秒程度かかります。
 ※天候、時間、環境等により電波の状態は変化します。
 ※受信インジケータは受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。



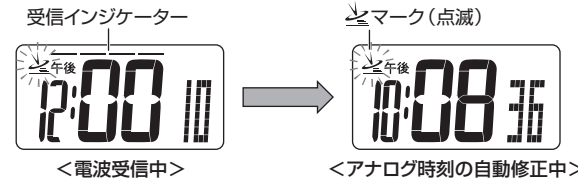
- ※受信中は「月・日・曜日」が時刻表示「時・分・秒」に切り替わります。
- ※受信中は受信しやすくするため、秒針を00秒の位置に止めて時分針のみ運針させています。このようなときは、デジタル部にて正確な時刻をご確認ください。
- ※受信成功まで約4~14分かかります。
- ※受信中はボタン操作を行なわないでください。

<ご注意>

- お掛けになる場所は、窓側などできるだけ電波が届きやすいところに送信所と壁面の向きを考慮して選んでください。(右図①)
- 電波受信の様子を見る場所は、お掛けになりたい場所のできるだけ近くに同じ向きにして置いてください。(右図②)

→ 受信成功

デジタル部…受信成功後、すぐに正しい時刻に修正されます。アナログ部の修正後、約10秒ほどで通常表示(月、日、曜日)に戻ります。
 アナログ部…正しい時刻の位置まで針が自動的に進みます。
 ・アナログ時刻が3分以内で進んでいた場合は、その間針は停止します。
 ・時刻修正が完了するまで、最大3分程度かかります。(その間 ☼ マークが点滅し続けます)。
 ・ ☼ マーク点滅中は、電波受信を行なえません。
 ※受信成功後、テレビや電話サービス等の時刻と本機の表示する時刻を照合してください。



※正しい時刻の位置までアナログ針が自動的に進みます。
 (修正終了後、 ☼ マークが点灯表示となります。ただし、「時」「分」「秒」のみ修正された場合は ☼ マークは点灯しません。)

→ 受信できない

…時刻修正は行ないません。
 約14分後に受信は止まります。
 ※このときは、本体の向きや置き場所を変えてWAVEボタンを押して、もう一度受信開始させてください。

●手動受信

WAVEボタンを押すと、電波受信が開始され、受信インジケータが表示されます。
 ※WAVEボタンを押さなくても「2:05」になると再び自動受信を開始します。以後、受信成功するまで毎時5分に自動受信を行ないます。但し一度受信に成功すると、翌日の午前2:05まで受信は行ないません。自動受信は手動受信の操作に関係なく行ないます。
 ※一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境或使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。
 ※電波受信が全くできない場合でも、月差±30秒の精度で計時します。

受信できない場合でも、翌日に電波受信に成功することもありますので、しばらくそのままにしておいてください。

4 1~2週間電波受信の様子を見ます

本機は通常毎日、午前2:05(1回/日)に電波受信を自動的に行ないます。受信に失敗した場合は毎時5分の自動受信に変わります。
 受信の結果は ☼ マークの点灯/不灯でお知らせします。

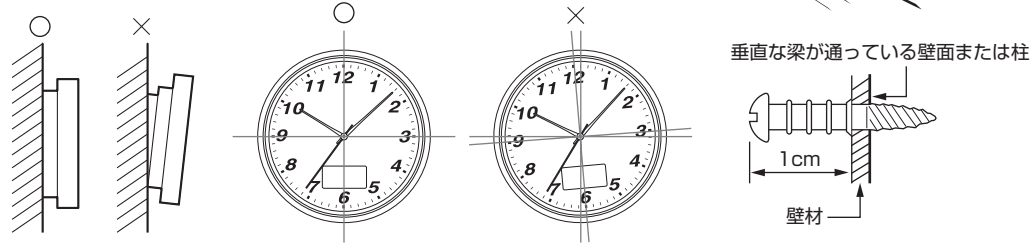
<p>“☼”が常に点灯している、または点灯しているときが多い</p> <p>電波受信は良好</p> <p>そのまま、その場所でお使いになれます。</p>	<p>“☼”がまったく点灯しない、またはたまにしか点灯しない</p> <p>電波受信しづらい</p> <p>その場所では電波受信しづらいので、場所を変えて再度電波受信の様子を見てください。</p>
--	--

5 本機を取りつけます

※受信の様子を見た場所とお掛けになった場所で、電波受信に差が出る場合があります。

<時計の掛け方について>

- ネジを垂直な梁が通っている壁面または柱にしっかりネジ込みます。
- 下図の様に時計を正しい姿勢で取りつけます。



【電池交換後すぐに使用したい場合】

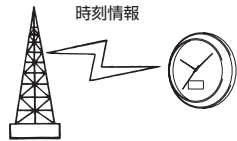
1. 電池を入れます。(「■電池交換のしかた」参照)
2. リセットボタンを押します。(リセット操作)
3. 針が12:00の位置で止まってからデジタル時刻を合わせます。(「●デジタル時刻の合わせ方」参照)
※アナログ時刻はデジタル時刻に連動して自動的に修正されます。
4. 本機を使用したい場所に置きます。
※デジタル時刻を修正した場合や手動受信を行なった場合でも自動受信は通常通り行ないます(午前2:05)。
※受信が成功した場合は正しい時刻に修正されます。



電波時計について

●電波時計とは

正確な時刻情報〔日本標準時〕をのせた長波標準電波 (JJY) を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

●標準電波

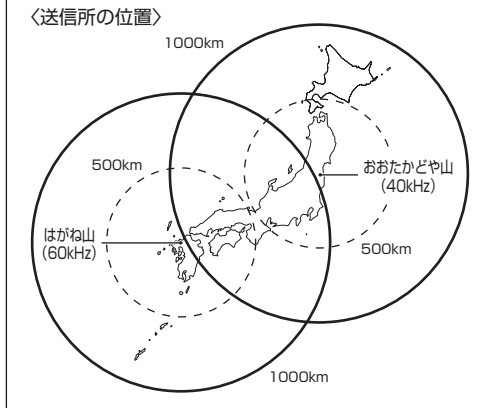
標準電波は独立行政法人通信総合研究所 (CRL) が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所」(40kHz) および佐賀県と福岡県の境の「はがね山標準電波送信所」(60kHz) から送信されています。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信中断されることもあります。

●電波の受信範囲の目安

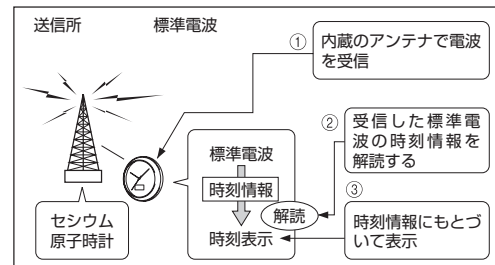
条件の良いときは、送信所からおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。

また、受信範囲内であっても、季節や天候、使用場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響などによって、受信できないことがあります。



●受信のしくみ



●電波受信について

本機は「おたかどや山標準電波送信所」(40kHz) と「はがね山標準電波送信所」(60kHz) の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行ないます(自動選局機能)。通常は午前2:05に電波受信を自動的に行ないます(自動受信)。

電波受信は次の種類があります。

- 自動受信
(毎日、午前2:05になると自動的に受信を行ないます。受信に失敗した場合は、受信に成功するまで毎時5分に自動受信を行います。)

- 手動受信
(WAVE ボタンを押して受信を行ないます。)

※1回の受信は約4~14分間です。

※受信に成功すると、すぐに正しい時刻/月日(曜日)に修正されます。また、ぴったりマークが点灯して受信成功をお知らせします。

⚡マーク…毎日、午前2:05に行なわれる自動受信や手動受信の電波の受信に成功していることを表わします。(正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります。)

※受信に失敗した場合、⚡マークは消灯します。

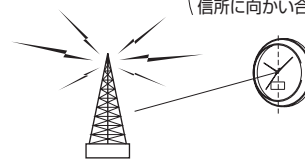
<正しく受信するために>

- 電波受信できる場所でお使いください(「●使用場所について」参照)。

- 本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります(本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります)。

最も受信しやすい設置のしかた

(時刻表示部または裏面を電波送信所に向かい合うようにする)



- 受信中(受信インジケータ表示中)に、ボタン操作をしないでください。受信が終わるまでお待ちください(約4~14分)。

<ご注意>

- 自動受信及び手動受信は、時刻のセット中には行なえません。

- 電波受信を行なわない間は、月差±30秒以内の精度で計時します。

- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。

●使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでお使いください。

以下のような場所では、電波受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。



マンションやビルなどの鉄筋、鉄骨の建物の中およびその周辺
※但し、窓ぎわで使用すると受信しやすくなります。



高圧線、架線の近く



乗り物の中
(自動車、電車、飛行機など)



家庭電化製品、OA機器のそば
(テレビ、スピーカー、FAX、パソコンなど)



電波障害の起きるところ
(工事現場、空港のそば、交通量の多いところなど)



金属板の上、山の裏側…など

エラー表示について

この表示が出たらリセットボタンを押してください。リセット後、再びこの表示が出た場合は電池の容量が不足している可能性がありますので電池を交換してください。



<エラー表示>

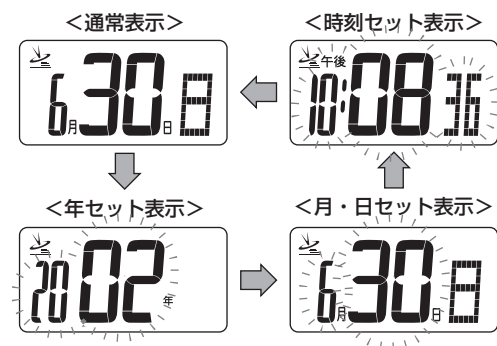
※エラー表示中は時計の動作を停止します。

時刻の合わせ方

● デジタル時刻の合わせ方

電波受信により、時刻修正できないときに以下の操作を行なってください。
以下の操作でデジタル時刻を修正すると、後からアナログ針がデジタル時刻に合わせて自動修正されます。

(1) セットボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。



(2) アップボタンまたはダウンボタンを使って、現在時刻などを合わせることができます。

アップボタンを押すごとに点滅箇所（分）の数字が進みます。
ダウンボタンを押すごとに点滅箇所（分）の数字が戻ります。

※それぞれ押し続けると早送り/戻しができます。

- ★年は2000年～2099年までセットされます。
- ★<時刻セット表示>のときボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで「00秒」からスタートします。
- ★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

(3) セットが終わりましたら、セットボタンを押して<通常表示>に戻します。

※時刻を修正した場合はデジタル時刻に合わせてアナログ針が自動修正されます。

※セット状態で表示を点滅させている間は、自動受信を行いません。

※アナログ時刻の自動修正中（点滅マーク点滅中）にセット表示に切り替えると自動修正は中断されます。その後通常表示に戻すと再びアナログ時刻の自動修正を行いません。